

1 介護予防普及啓発事業

介護予防活動の普及・啓発を行う。

(1) 清須市民げんき大学（官学連携事業）

介護予防に関する座学及び実技。卒業後は交流会や地域での活動ができる人材の育成

開催：年16回、会場：愛知医療学院短期大学

対象：自身の介護予防及び地域活動に参加意欲のある概ね65歳以上の方

《参加者数》

(実人数)

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
人数	30	21	20	22	25	20	26

《現状と課題》

現状	課題	対策案
卒業生の活動（令和4年度） ①会報部「げんき広場」の発行 内容：健康について、趣味、地域活動についての紹介等 ②健康けん玉サークル ③げんき大学に関するボランティア活動や研究協力 ④集まってウオーキング	・地域活動、ボランティア活動等との連携が十分でない。卒業後の活動の場を見つけれないまま終了する方もいる。	・同窓会での広報活動 ・講義の中で卒業後のボランティア団体立ち上げを推奨。 ・家事サポーター制度の案内。 ・市の事業との連携を依頼。

(2) やろまいか教室

週に1回、申込み不要で気軽に参加できるストレッチや認知症予防のコグニサイズを交えた運動教室

会場：アルコ清洲（毎週金曜日）、西枇杷島会館（毎週火曜日）

対象：概ね65歳以上の方

歩行や立位で行う運動が中心（参加者はADL自立。うち要支援者が数名程度）

《参加者数》

(実人数)

年度	H29	H30	H31	R2	R3	R4
アルコ清洲	200	121	91	87	83	69
西枇杷島会館	—	—	—	54	56	61
合計	200	121	91	141	139	130

《現状と課題》

現状	課題	対策案
・西枇杷島会館では1回あたりの平均参加者数がR2：19名、R3：24名、R4：36名と順調に増加している。清洲は平均40～50名前後で推移。 ・地域の繋がり場の場、通いの場として機能している。	・男性の参加者が少ない。 ・教室の内容が参加者によっては物足りない、又は運動量が多く追いついていけない等参加者のレベルに幅があり全員が満足する内容にすることが難しい。 ・西枇杷島会館が夏期の間使えない。	・男性の参加者を増やすための工夫 ・年間通して使える西枇杷島地区の会場の確保。

(3) チャレンジ教室

週に1回、iPadを利用した認知症予防教室

脳トレプリントや回想法等多彩なプログラムを実施

会場：にしび創造センター、新川福祉センター、清洲市民センター、春日老人福祉センター

定員：各会場30名

対象：概ね65歳以上の方

《参加者数》 H29年度は3会場、H30年度は定員増にて開催。 (実人数)

年度	H29	H30	H31	R2	R3	R4
前期・後期	93	117	105	106	124	117

《現状と課題》

現状	課題	対策案
<ul style="list-style-type: none"> ・申込み開始初日に定員に達し、キャンセル待ちが発生。 ・昨年は半期ごとだったが、今年は年度通して教室を実施。 ・令和5年度は資料費（脳若ノート）を配布）として千円を徴収。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多い教室では半数以上がリピーターで、新規の利用が少ない。 ・卒業後に集まる場所が少ない。 ・事業費が高く、他事業に比べると費用対効果が少ない。（講師が2人でプロジェクターや携帯端末を利用するため） ・いこまいか教室との棲分け 	<ul style="list-style-type: none"> ・定員を超えた場合、新規の方を優先する。 ・卒業生をオンラインチャレンジ教室へ誘導 ・教室の内容を再検討する（初級スマートフォン講座など）

2 地域介護予防活動支援事業

地域における住民主体の介護予防活動の育成・支援を行う。

(1) いこまいか教室

週に1回、地域の身近な場所を通える運動教室。椅子に座って行う軽運動が中心

会場：26カ所（清洲地区10カ所、新川地区9カ所、西枇杷島地区1カ所、春日地区6カ所）

対象：概ね65歳以上の方

《地区別会場数》 (人)

地区	清洲地区(10)	新川地区(9)	西枇杷地区(1)	春日地区(6)
会場	田中町、伊勢町、西市場住宅、新清洲1～4丁目、新清洲5.6丁目、西田中弁天、上条、下本町、一場、西市場1～5丁目	坂町、下河原、西堀江、外町、寺野、助七、鍋片、阿原、西町	西枇杷島福祉センター	落合、宮重町、祢宜家、蓮花寺、中之切、上之切
登録者数	302	235	31	112

《年齢男女別人数》 (人)

年齢	64歳以下	65歳から74歳	75歳以上	合計
男	2	22	106	130 (18.5%)
女	7	113	430	550 (81.5%)
合計(割合)	9 (1.3%)	135 (19.9%)	536 (78.8%)	680 (100%)

《現状と課題》

現状	課題	対策案
<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の約1割が介護保険受給者。 ・通いの場として、事業対象者、要支援1、2の方の受け皿となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規の受け入れが難しい会場がある。 ・西枇杷地区が1カ所で開催地区に偏りがある。 ・運営を担う世話役の高齢化（担い手不足）。 ・新規層の開拓が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の案内や参加者の募集を広報に掲載する。

3 地域リハビリテーション活動支援事業

地域リハビリテーション専門職等を活かした自立支援に資する取組を推進し、介護予防を機能強化する。

(1) 介護予防ケアマネジメント支援事業

地域包括支援センターの職員が要支援者の自宅を訪問する場合に、リハビリテーション専門職を派遣する事業

< R 4 実施 1 名 >

(2) 住民主体運動教室等活動支援事業

高齢者が主体となって運営する通いの場へリハビリテーション専門職を派遣して、介護予防教室の充実を図り活動の活性化及び効果的な運動方法等のアドバイスを行う。

- ・年4回の介入を基本とした運動プログラムの定着化
- ・新しく住民活動を開始したい団体への支援

< R 4 実施 6 団体 >

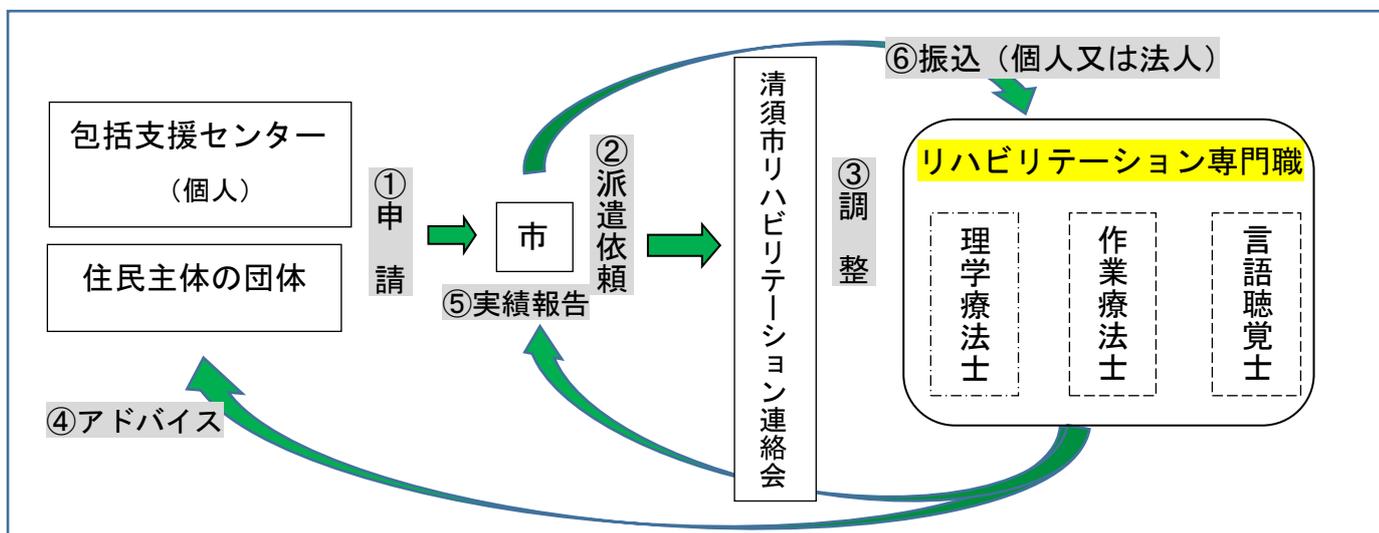
(人)

	地区	講義内容	のべ参加人数	参加団体数
1	春日	認知症予防、コグニサイズ	6 2	2
2	新川	体力測定、認知機能測定結果説明、体操等の実施	9 0	1
3	西枇	フレイル予防	1 0 2	2
4	清洲	体力測定、バランステスト、バランス能力の講義	2 4	1

《現状と課題》

現状	課題	対策案
<ul style="list-style-type: none"> ・利用実績が少ない ・団体利用は昨年より増えている。(R 3 : 2 団体 4 回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の周知、包括との相談 ・事業支援後にも参加者自らが取り組めるために、通いの場に沿った事業支援を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅でも継続して取り組める内容を提示し、参加者と一緒に目標が達成できるよう継続的に支援する。 ・高齢者の保険事業と介護予防の一体化実施

●リハビリテーション専門職派遣方法と事業の流れ



4 ICTを利用した介護予防事業

感染症の流行や自然条件にも左右されない新たな介護予防事業として、ICTを利用した取り組みを行い、地域包括ケアシステムの充実を図る。

(1) 介護予防事業LINE公式アカウントの開設

介護予防教室に参加する高齢者等に対し、介護予防係のLINEアカウントを利活用して介護予防教室等の開催案内を行い、介護予防事業の啓発・充実を図る。

現状	今後の方針
<ul style="list-style-type: none"> ・登録者数：271人（男性30.2% 女性69.8%） ・げんき大学の授業の様子や新規事業、熱中症情報等を流している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防事業や通いの場の様子を、写真などをつけて紹介していく

(2) 新川福祉センターにおける無料Wi-Fiの設置

新川福祉センターを通いの場として活用していただくため、無料のWi-Fiを設置した。接続可能時間は午前9時から午後5時（福祉センターの開館時間）まで。

現状	今後の方針
<ul style="list-style-type: none"> ・時折問い合わせがあるが、定期利用している方は見当たらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きLINE等で周知していく

(3) オンラインチャレンジ教室

概ね65歳以上の方を対象として月に二回、LINEで軽運動や脳トレ問題等を配信する。配信日は職員が無料Wi-Fiのある新川福祉センターで利用者にLINEの操作方法等の助言を行う。また、配信日のみポケットWi-Fiを利用し、西枇創造センターでも通信料を発生させず利用できるようにした。

現状	今後の方針
<ul style="list-style-type: none"> ・お友達登録者：180人 ・新川福祉センター来場者：1～4人 ・西枇創造センター来場者：4人 ※新川福祉センター来場者は新規の方が多い。（2回目からは自宅でアクセスしている） 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジ教室の卒業生を呼び込む（スマートフォンを持っていない卒業生については要検討）。 ・職員に代わり、げんき大学の卒業生にLINEの操作方法等の助言を行ってもらう。

(4) つながろまいか教室の開催

軽運動とスマートフォン（LINE等）の操作方法を教える高齢者向けデジタル支援教室を、無料Wi-Fiの設置がある新川福祉センターで開催した。半年間、月二回の開催。

現状	今後の方針
<ul style="list-style-type: none"> ・参加者：9名 	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンの操作方法を教えていると十分に運動の時間がとれない。教室のありかたを再検討する。（チャレンジ教室との分担等） ・地域の世話役に参加してもらい、学習の成果を地域に還元する。

(5) 高齢者等見守りシール交付事業

認知症等によって徘徊の恐れがある高齢者をスムーズに見守り・保護できるよう、認知症高齢者等の事前登録をされている方に、二次元コード付きのシールを30枚無料で配布する。

周知のため、認知症高齢者等の事前登録を行っている方への通知、寿会及び民生委員協議会等での広報活動を行った。

現状	今後の方針
<ul style="list-style-type: none"> ・登録者：9名 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も周知活動をしていく。 ・新たに行方不明になった高齢者には個別に通知。

